

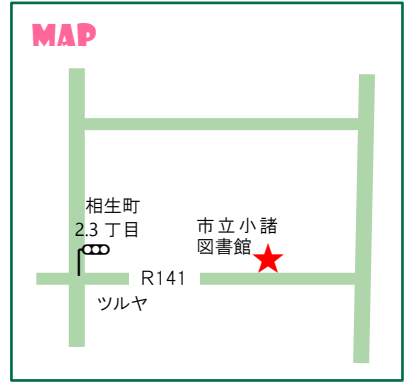
こ み ち

本の小途

V o l . 2 2
2025.夏秋号



特集・図書館で出会う



=表紙写真= 市立小諸図書館のテラスから撮影した夕焼け (2024年8月31日撮影)

私は、小学校の学校図書館の記憶は、私にとっての最初の図書館の記憶は、小学校の学校図書館である。それ以前は我が家では幼稚園を通して月間絵本を買っていた。『おてがみ』（中川李枝子 作、中川宗也 絵）『さかさま』（安野光雅 作・絵）など、くり返し母に読んでもらった。学校図書館は、2階の突き当りにあり、休み時間に行くのが毎日の楽しみだった。入って正面左に、『赤毛のアン』『秘密の花園』などの少女小説、右側には歴史物語。代本板を片手に本を探したあの学校図書館の記憶は消えることがない。

石井桃子さんは「子どもたちも子ども時代をしっかりとたのしんでください。おとなになってから 老人になつてからあなたを支えてくれるのは子ども時代の「あなた」です」と言われた。今の私は、正に子ども時代の自分に支えられている。

図書館ってどんなところ？

—考えよう！私にとっての図書館—

どんな使い方ができる？



『世界一かんたんな図書館の使い方』
つのだ由美子/著
秀和システム



『お父さんが教える図書館の使いかた』
赤木かん子/著
自由国民社



『図書館 100 連発』
岡本真/著・ふじたまさえ/著
青弓社

こんな使い方もできる！

どんなことをしてる？



『はたらく図書館』
吉田亮人/写真 矢萩多間/文
創元社



『世界の美しい図書館』
パイインターナショナル

建物にも注目！



『あこがれの図書館』
パトリシア・ポラッコ/作
福本友美子/訳
さ・え・ら書房



『図書館につづく道』
草谷桂子/著
子どもの未来社



『図書館がくれた宝物』
ケイト・アルバス/作
櫛田理絵/訳
徳間書店

みんなにとっての図書館！

賛助会員 募集のお願い

わたしたち本途人舎は本と人、過去と未来をつなぐ活動をしています。わたしたちの活動へのご支援を募集しています。

- 年会費 (個人) 一口 3000 円 / (団体) 一口 10000 円
- 銀行振込 振込先: 特定非営利活動法人 本途人舎 (名義名: ホントヒトシャ) 八十二銀行 小諸支店 普通 口座番号 1128420
※新規で振込にて申し込みをされる方は、お手数ですが、本誌奥付のメールアドレスまでご一報ください。
- 本途人舎メンバーに直接お渡ししていただくことも可能です。

編集後記 今号の特集は図書館との出会い方です。こんな出会い方しました、こんな使い方をしたい、こんなことが出来たらいいな…。そんな生の声をお知らせください。

NPO 法人本途人舎会報「本の小途」 2025 夏秋号 (第 22 号)
編集スタッフ 金子美江 塩川かおり 依田彩佳
表紙写真・依田彩佳 表紙文章・井出明子
発行 NPO 法人本途人舎 市立小諸図書館 運営一部業務受託者

2025.8.1 発行
Mail hontohitosha@honhito.com
HP <https://www.honhito.com/>





図書館で出会う

図書館には、本との出会いに加えて、人や学び、そして新しい自分と出会えるチャンスが潜んでいます。



情報と出会う

図書館は、地域の情報や文化・歴史を伝える場としての役割も担っています。

その1 地域の情報と出会う

地域イベントなどのチラシをチェック。また、市内の公共機関と連携した取り組み（例えば、病院や市の健康づくり課と連携した健康情報コーナーや、各種啓発パネル展など）から、地域の情報を知る事ができます。

その2 人と出会う

図書館主催の読み聞かせ、朗読会、サロンなどに参加して、地域で活動している人と出会うことで、新しい縁が生まれるかもしれません。

その3 参加してみる

図書館では、様々な分野の専門家を招いた講演会なども開催されます。また、聞くだけでなく、参加者が町の歴史を調べたり、昔の町の写真を見ながら場所を当てる企画などを行っている図書館もあります。そうした場に参加することで、学びの場が広がるきっかけになるかも。



個人のお家に眠っている、昔の町の写真なども、図書館で保存すれば、歴史を残す資料として残していくことができるんですって。



職員に声をかけるの、勇気がいるかもしれないけれど、気軽に聞いてみてね。
声をかけられるのを待っているよ。



学び方と出会う



調べる、考える、アイデア出し…。

図書館は“学び方”を見つけ、好奇心の幅を広げる場所でもあります。

その1 レファレンスを活用

レファレンスとは、「このことについて詳しく知りたい」「資料を探したい」という時に、司書と一緒に調べ方を考えてくれるサービスです。調べる過程を一度体験すると、調べ方のコツがつかめます。

その2 データベースを体験

図書館では、新聞記事や古い資料、学術雑誌などのデータベースを閲覧することができます。ネット検索では得られない情報にアクセスでき、調べる幅が広がります。

その3 アイデアをみつける

日々の暮らしに役立つアイデア、図鑑などで創作活動のヒント探し、SNS 発信のネタ集め、副業などビジネスの指南書、入門系の本で気になることをチェック…など、本を活用して自由に考えを広げることも出来そうです。

☆彡 お気に入りの1冊と出会う ☆彡

読みたい本を「探す」だけでなく、「出会う」を楽しみましょう。

その1 ブラウジング

ブラウジングとは、館内を歩いて背表紙を漠然と眺めたり、気になった本を手にとって拾い読みしてみていることをいいます。特に普段行かないジャンルの本棚に行くと、新しい発見があるかもしれません。

その2 企画展示などで本と出会う

企画展示コーナーは、記念日や時事ネタ、季節の話題などの本が1か所に集められているので便利。返却本コーナーも、人気のある本と出会えておすすめです。

その3 好きなジャンルから

読書が苦手でも、「好きなもの」「興味があること」から本を探せば OK です。例えばスポーツ選手のインタビュー集、映画の原作、詩や写真集など。そして、本は最初から最後まで読まなくてもいいんです。「何か気になる」ページがあれば、それが本との出会いのスタートです。

テレビやSNS で気になるコトがあったら、本で調べてみようかな～って思うことが、始めの一歩なのよね。



『図書館に出会う』

非営利活動法人

本途人舎・代表

大林 晃美

私にとって図書館といえば「学校図書館」だった。公共図書館には、ほとんど行った覚えがない。書店に叔母が務めていたこともあって、書店には頻繁に通っていた。私にとって本は「買う」ものだった。要するに「図書館」には縁がなかった。そんな私が「図書館」に通うようになったのは、子どもが生まれてからだ。子どもといっしょに公共と私立の図書館2館をはしごして、目いっぱい絵本を借りてきた。たくさん絵本に出会い、「読み聞かせ」にも出会った。図書館って本がタダで借りられる、便利な場所だなあと、心から思った。

それがどうした縁か、巡り巡って今、「図書館」の委託を受け運営する立場にいる。「図書館」とは何か？この図書館をどんな「図書館」にしたいのか？日々問われている。

私にとって「図書館」はもう、タダで本を借りられる便利なだけの場所ではない。民主主義の砦、知の拠点等々に始まり、課題解決、サードプレイス…すでにサグラダ・ファミリア然として地下にも天にもそびえ立ち、未だ完成を見ていない状況なのだ。

ただ、利用する立場からすると、使い方は自由だ。便利な場所でもいい。便利な場所でないのだが、もう一步奥へ進むと、今まで見えていなかった「図書館」に出会えるはず。私たちは今、日々違う「図書館」に、何度でも出会ってほしいと願いながら、場を開いている。

